

子どもの居場所の作り方～挫折と課題を乗り越えて～

岸和田市社協では、子ども食堂や子どもと一緒に遊んだり勉強したりする居場所などを子どもの居場所と呼んでいます。子どもの居場所をこれから立ち上げようと考えている方の想いや立上げの流れを紹介します。



吉田重数さん

吉井町の春ヶ丘自治会で子ども食堂の立ち上げの取り組みが始まったと聞きました。子ども会から子ども食堂を立ち上げたいと提案があり、老人会がしっかり支援するという話し合いの道筋ができています。

ところが、社協地区担当の藤澤さんと取材に伺った7月31日、自治会長の吉田重数さんと老人クラブ会長の吉田美喜子さんの話に驚きました。子ども会から主導で動くことが難しくなったとの連絡があったということです。子ども食堂は突然、暗礁に乗り上げてしまいました。

そこで踏み出す第一歩は・・・

私たちは、普段から地域で子育てをし継続していくことと、世代間交流を大切にしたいと考えてきました。今回、もう無理かと思う一方で、子ども食堂をやめていいのか悩みました。

何とんでも、子ども会でのアンケート結果がありました。大多数の人が子ども食堂が必要だと答えたのです。ただし、子ども食堂を手伝える人はほとんどありませんでした。

でも、とにかく立ち上げて、計画が具体的にしていけば、人はきっとついてきてくれると思います。老人クラブが中心になって、核になる人を5人集めて、できる人ができることを少しずつする形でメンバーを募ろうと覚悟が決まりました。



吉田美喜子さん

春ヶ丘自治会の子ども食堂はどうなっているのでしょうか。9月4日老人クラブ会長、吉田美喜子さんにこの1ヶ月のお話をお聞きました。

仕切り直して再出発

本当にあの時は頭が真っ白になりました。場所が集会所の部屋に決まるまでも、いろいろな可能性を考えて走り回ったのです。さあこれからという時でした。

でも3分の1が賛成してついてきてくれば、あとは増えていくものです。自治会や老人クラブの会合でもリビングのミーティングでも子ども食堂の話をしました。すると、今は使っていないという5合炊きの炊飯器や電子レンジを持ってきてくれました。料理が好きだから手伝いたい、という人もいます。隣の町から食べに行ってもいいかと子どもが聞きます。それならお手伝いもできると、その家族も行ってくれます。

活動の内容も、できた料理を運ぶなどと具体的にできれば、それならできるという人が出てきます。

藤澤さんから、最初から全部の子どもと大きく考えなくていい、小さくてもいいと言われたとき、いっぺんに身が軽くなった気がしました。中心になってくれる人も集まり、これで何とかやっていけるところまできました。子ども会も支援してくれます。

いよいよミーティングと思っていたところ、小学校がコロナで休校になり、中断です。

実現はもう目の前に

コロナ次第ですが、11月スタートを目指して協力者でのミーティングをします。

集会所の入り口にお手伝い募集のチラシを貼ります。できるだけ具体的な活動内容を書いておきます。

(編集委員 川口)



子どもの居場所(子ども食堂)の 三つの課題

●こんなところで開催しています 「場所」

グループによって活動場所はさまざまです。社会福祉施設の一室を利用したり、調理室のある公民館や福祉センターなど公共施設を利用したり、空き家や空店舗を借りて実施しているところもあります。家主の善意で無料または低額で借りているところが多いです。もし、空き家の有効活用でお困りの方がいましたら、子どものために地域のために使ってみませんか。

●メンバーの集め方のヒントは… 「人」

職場の同僚・仲間を集めてグループを立ち上げたり、子ども会や老人クラブなど地域の組織を中心に立ち上げたり、人の集め方はグループによっていろいろです。人の集め方がわからない、人数が集まらないとお困りの方は、ボランティアセンターへお声掛けください。本紙や社協ホームページを使ってメンバー募集をお手伝いします。

●お金、食材に行きづまったら社協へ 「資金」

食事提供に必要な食器をそろえたり、厨房設備が古いため入れ替えたり、活動の初期段階で多くの資金が必要になります。また、食材や案内チラシ、事務用品など継続的に費用がかかります。新型コロナ対策としてテイクアウト形式で活動するとなれば、持ち帰り用の容器やビニール袋、お手拭き、割り箸など通常よりも必要なものが増えます。

団体独自で活動資金を得ることが難しい、どうやってお金を集めたらいいかわからない方は、社協へご相談ください。社協独自の助成金があります。他団体の助成金のご紹介や助成金によっては社協推薦が必要なものもありますので、推薦文を作成します。書類の作り方がわからない方には、申請書類の作成支援をします。